



各賞受賞

サルファーフリー摩耗防止剤配合エンジン油が「平成27年度 関東地方発明表彰 東京商工会議所会頭賞」を受賞

平成27年11月13日、当社が発明した「サルファーフリー摩耗防止剤配合エンジン油」が、公益社団法人発明協会が主催する「平成27年度 関東地方発明表彰 東京商工会議所会頭賞」を受賞した。

本発明表彰は、各地方において優秀な発明等を称え顕彰するもので、車の省燃費化が進展する中、当社発明のエンジン油が粘性抵抗を大幅に低減し省燃費性に大きく貢献した。

当社は、この発明を活用した「ENEOS プレミアムモーターオイル SUSTINA」を全国約11,000店のENEOS サービスステーションで販売し、2010年の発売以来、「違いを実感できるエンジンオイル」として好評を得ている。

「SUSTINA」は高性能化学合成ベースオイル「WBASE」を採用し超高粘度指数を実現。エンジン始動時の低温時からターボなど超高温時になる環境においても、エンジンを保護すると同時に省燃費を実現する理想的な粘度を保持し「省燃費性能最大2%向上」を達成した。また、添加剤にはサルファーフリー添加剤「ZP」を採用することにより「エンジン清浄性能持続力2倍」「省燃費性能持続力2倍」を実現している。

アイドリングストップ車、ハイブリッド車またターボ車など、エンジンの多機能化・複雑化が進む中、様々な要求性能に高いレベルで応える「SUSTINA」は、時代を先取りしたエンジンオイルと言える。



表彰式の模様；受賞者は八木下チーフリサーチャー
(中央技術研究所 潤滑油研究所)



各賞受賞

平成27年度省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞を受賞

省エネ大賞は、優れた省エネルギー活動事例等を表彰し、省エネルギー意識の浸透などに寄与することを目的とした一般財団法人省エネルギーセンター主催（後援：経済産業省）の事業である。

大分製油所の優れた省エネ管理手法と2014年定修時に実施した省エネ改造により、20,000KL/年以上の省エネを達成した事例が、「平成27年度省エネ大賞（省エネ事例部門）」の「省エネルギーセンター会長賞」を受賞した。

主な省エネ改造は、1. パラキシレン装置蒸留塔の廃熱回収、2. BTX装置蒸留塔のリボイラー熱源を蒸気から熱油に変更する多重効用化、3. 副生水素の回収能力増強による水素製造装置負荷低下の3件である。



左から 手島グループマネージャー、市来担当
（ともに大分製油所 計画グループ）



各賞受賞

「ザイダー® CMシリーズ(低発塵型)」が 「2015年“超”モノづくり部品大賞」で電気・電子部品賞を受賞

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が主催する「2015年“超”モノづくり部品大賞」にて、「ザイダー® CMシリーズ(低発塵型)」が電気・電子部品賞を受賞し、さる10月13日に贈賞式が行われた。

「ザイダー®」は、スーパーエンブラ^(注)の一種である液晶ポリエステルであり、耐熱性、難燃性、精密成形性、寸法安定性などの様々な特長を有し、主に電気・電子部品用材料として使用されている。その中でも、スマートフォンなどに搭載されているカメラモジュールでは、高画素化に伴い、部品の組立工程などにおいて表面剥離による発塵の問題を抱えていたが、「CMシリーズ」は独自の混練技術で発塵を抑え、この問題に容易に対応できるようになった画期的な商品である。

(注)エンブラ(エンジニアリングプラスチック)の中でも、耐熱温度が150℃以上で長期間使用できるなど、優れた性能を備えた樹脂の総称。



左から中山社員、佐々木ユニット長、
青柳グループマネージャー
(ともに、機能化学品カンパニー スーパーエンブラ事業ユニット)

第25回日本MRS年次大会でのポスター発表で奨励賞を受賞

日本MRS(The Materials Research Society of Japan)主催の第25回日本MRS年次大会(2015年12月8日~10日)における当社玉井社員のポスター発表「CO₂分離回収型水素精製装置と膜素材の開発」が奨励賞を受賞した。同賞は、40歳未満の若手研究者のうち、研究内容や発表構成等の観点から優秀な発表に対して授与される。

発表内容は、水素分離膜とCO₂分離膜の素材選択および改良により分離性能を向上させた結果、これらを組み合わせたシステムにおいて、水素製造時に副生するCO₂を分離回収しつつ燃料電池自動車用の高純度水素を高い回収率で製造できるというものである。本開発技術におけるCO₂分離回収による低環境負荷性や、従来技術に優る水素製造効率の高効率性が高く評価された。ENEOS Technical Review 本号の報文1に発表内容を含む研究成果を掲載している。



受賞者の玉井社員
(中央技術研究所 先端領域研究所)



船舶用潤滑油の技術・実用性能をアピール 「マリンシンポジウム 2016」を開催

2016年2月10日、海運クラブ(千代田区平河町)において、内航船主および特約店の方々(総勢89社168名)を対象に「マリンシンポジウム 2016」を開催した。

当社池田顧問による「最近の原油情勢」の講演を始め、国交省海事局の「天然ガス燃料船の普及促進に向けた総合対策委員会」委員長を務められた九州大学総合理工学研究院の高崎教授や、内航船用エンジンで国内最大シェアを誇るヤンマー株式会社特機エンジン事業本部の松永品質保証部長と開発部・第二開発部の大橋専任部長から講演いただき、潤滑油や原油の話題から内燃機関の最新技術動向や船舶を取り巻く直近の環境規制までの幅広い内容のシンポジウムとなった。

本シンポジウムでは、当社は船舶用潤滑油に関する技術や実用性能のアピールだけではなく、船舶運航における潤滑油管理の大切さについても提唱し、来場した業界関係者から高い関心が寄せられた。

また今年5月31日には愛媛県の今治国際ホテルにて外航船主を対象としたマリンセミナーを開催するなど、今後とも幅広くお客様との関係強化を図っていく予定である。

(潤滑油カンパニー 潤滑油販売部 船舶用潤滑油グループ 出口 健)



マリンシンポジウム 2016 の様子



九州大学 総合理工学研究院
教授 高崎 講二 様



ヤンマー株式会社 第二開発部
専任部長 大橋 一生 様



ヤンマー株式会社
品質保証部長 松永 伸宏 様